

『この夏の星を見る』 辻村深月

「コロナの年じゃなかったら、私たちはこんなふうになんか会えなかったから。どっちがいいとか悪いとか、わからないね。悪いことばかりじゃなかったと思う」。2020年度。コロナによってあらゆるものが奪われた、あの年の物語。長崎の五島列島で家が旅館を営んでいて、県外からの客を受け入れているからと、友だちに距離を置かれた円華。渋谷の中1で、同学年の男子は一人っきりで、サッカー部を諦めて理科部に入部した真宙。その真宙らが、手作りの天体望遠鏡で星を捕まえるスピードを競う「スターキャッチコンテスト」に興味を持ち、例年は開催していた茨城県の高校の天文部に「中学生でもできますか？」とメールをしたことから、物語が動き出す。このコロナ禍で何ができるのか迷っていた高校のほうに飛びついたのだ。かくして、3校をオンラインでつないで、スターキャッチコンテストが開催されることに。コロナにも屈しない、感動の青春小説！

『世界でいちばん透きとおった物語』 杉井 光^{ひかる}

話題騒然！ ネタバレ厳禁！ この作品を読んで、JKをきゅんきゅんさせるアオハル恋愛小説にありそうなタイトルの真の意味がわかったとき、あなたはこのタイトルに深く納得し、言葉を失うことでしょう。この小説のしかけに気づいたとき、「よく思いついたな！」と感嘆の言葉を漏らし、さらには「よくぞそのアイデアを実現させたな！」と必ずや驚愕することでしょう。読んでください！ そして、驚いてください！ フリーランスの校正者である母親と二人っきりで暮らしてきた燈真の父親は、大御所ベストセラーミステリ作家の宮内彰吾である。宮内は妻帯者ながら多くの女性と交際し、その不倫の果てに生まれたのが彼だった。交通事故で母が亡くなり、大学に進学せず高校卒業と同時に書店でアルバイトを始めていた燈真は一人で生きることになった。しばらくして、宮内も急死する。一度も会ったことがなく、認知もされていないので、葬式にも参列せず、遺産もまったく期待していなかったところ、宮内の長男から、原稿の行方のわからない未発表の遺作があるはずなので、探してほしいと依頼される。遺作は『世界でいちばん透きとおった物語』。宮内の作風にはいささか不似合いなタイトルだった…。

『夜が明けたら、いちばんに君に会いに行く』 汐見夏衛

略して、「夜きみ」！「10代女子が選ぶ文芸小説 No1」にも選ばれた、みんなが大好きなあのかきゅんきゅんのラブストーリーが、白岩瑠姫（JO1）と久間田琳加主演でついに映画化です！コロナ禍以前の物語。みながマスクをつけなくてはならなくなるまえに、マスクを外さずにはいられなくなってしまった「マスク依存症」の女の子が主人公。マスクは手放せないのだが、優等生キャラを自ら演じ、クラスの誰とでもうまくやっている茜あかねにもたったひとりだけ苦手な生徒がいた。青磁せいじ。容姿端麗で真っ白な銀髪、自由奔放で絵もうまく、とかく注目を集める彼。2年でクラスが同じになり、微笑みかけたところ、あろうことか面と向かって「お前のこと、大嫌い」だと言いつつ放ったのだ。誰からも嫌われないことを最優先に生きてきたのに信じられなかった。それがきっかけで茜にはマスクが必須となった。いったい青磁はどんなつもりであんなことを言ったのだろうか？ 青磁のことを大嫌いになった茜だが、彼の描いた美しい空の絵を見て涙を流す。泣いたのはいつぶりだろう。作り笑いでなく、心の底から笑ったのはいつだろう。茜は青磁によって目を開かされていく…。こちらは「花きみ」!? こちらも大人気で映画化の『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』が、表紙も新たに限定番外編も追加で文庫から単行本化されて、再リリース！

『私たちの世代は』 瀬尾まいこ

「もし、感染症がなかったら、どうだったんだろうね。私たち」。「友達がたくさんいて、部活で活躍して、行事で盛り上がって。って、そんな理想どおりいったとは限らないよね。十代なんて、どんな条件の中でも絶対につらいことがあるし」。『そして、バトンは渡された』の瀬尾まいこさんがコロナ世代の「その後」を描いてくれました！ 小学3年生になるころ、いまだかつてない感染症が大流行し翻弄さえされた冴こはると心晴。冴は、夜の仕事をしながら自分としっかり向き合ってくれ、PTAの活動などにも熱心な母親の手作りのマスクを受け取れなかったクラスの男の子に二人で届けに行き、育児放棄され食事も満足に与えられていなかった子の存在を知る。心晴は、新しいクラスの顔も名前も知らない誰かと分散登校中に手紙のやりとりをして、一斉登校になったらチューリップ花壇のまえで会おうと約束をしたのに、家庭の都合でその約束を果たせなかったことをきっかけに不登校になってしまう。それぞれに感染症に大きな影響を与えられた同学年の小学生だった二人は、それぞれに成長して進学し、地域の観光センターの就職面接で出会う…。

『春に散る』上下 沢木耕太郎

佐藤浩市&横浜流星W主演で映画化！ 流星くんは役作りのためにボクシングを始め、プロライセンスを獲得してしまうほどの身の入れようだったそう！ 二人のボクサーの再起を描いた感動作！ 理不尽な日本のボクシングに嫌気がさしてアメリカへと渡り、ボクサーとしては挫折してホテル業界で頭角を現した広岡は、心臓病を患ったことをきっかけに40年ぶりに日本に帰ることを決めた。帰国して、かつては四天王と呼ばれ共に頂点を目指した仲間と再会し、それぞれがいまは孤独に暮らしていることを知った広岡は、元ボクサーの4人が共同生活できるシェアハウスのようなものを提供することに。飲み屋でお祝いをしていると、若者たちに絡まれた。そのなかに、選抜とインターハイと国体の三大大会に優勝して高校3冠でデビューし、6戦6勝6KO、7戦目も判定で勝ったがそれ以来沈黙している天才ボクサーの翔吾がいた。彼もボクシングの理不尽さに直面して不敗ながらボクシングから手を引いてやさぐれていたのだ。広岡はそんな彼と対決することになり、クロス・カウンターで倒してしまう。人生で初めてのダウンを奪われ目の覚めた翔吾は、ボクシングを教えてほしいと広岡に頼みこむのだが…。

『人魚と過ごした夏』 蓮見恭子

小学5年生のときに、シンクロナイズドスイミング改めアーティスティックスイミングに専念するため、いっしょにほかのスイミングスクールから移ってきた茜と水葉は、「オリンピックと一緒にいこう」という約束を実現すべく、高2になったいまも二人でペアを組んで全国のトップを目指してがんばっている。ところが、練習中に茜が全治3ヶ月の大ケガをしてしまう。そんな茜と同じクラスに、「<Vlog>ぼっちJKの地味な日常」(実は茜のお気に入りなのだが、もちろん「ぼっちさん」の正体は知らない)を動画で配信している陰キャメガネっ娘の由愛がいた。二人は話をしたこともなかったが、二人とも「すみっコぐらし」みたいな癒やし系のファンシーグッズ「モフモフ商店街」が好きなことから意気投合し、その映画をいっしょに観ることに。それっきりで終わるかと思ったら、由愛が1年のとき体育の水泳の授業をサボりまくっていたのを根に持つ体育教師から「夏休み中に泳げるようになること」と無茶ぶりをされ、茜に教えてもらえばいいと勝手に決められたあげく、大学に進学せずユーチューバーになるという由愛の進路の心配をする担任教師の思いつきから、AO入試のためにアーティスティックスイミングの紹介動画を撮影する羽目に。夏休みが始まる…。

『やさしい猫』 中島京子

「この裁判は、日本の社会に根を下ろして生きていこうとする外国籍の人々に対する国の姿勢を問うものです」。名古屋入管に収容されていたスリランカ人の女性・ウィシュマさんが亡くなった事件を予見していたかのような吉川英治文学賞受賞作が、TVドラマ化！ 私をひとりで育ててくれた母親のミュキさんは、私が小3のときに東日本大震災のボランティアに行って、そこでスリランカ人のクマさんと出会い、1年後に近所で再会して、交際するようになった。私も含めて3人で仲よくなり、中学生になるタイミングでクマさんが同居するようになり、中3の6月に結婚式を挙げる予定だった。ところが、4月にクマさんの勤めていた工場が倒産してしまい、言い出せずにこっそり再就職先を見つけようとしていたところ、「在留カード」の期限が切れてしまう。結婚すれば、スリランカに帰らずにすんで、自由に仕事も探せるのではないか。失踪してしまっていたクマさんを見つけ出し、慌てて二人は入籍をするが、手続きのために東京入国管理局に行く途中の品川駅で職質をされたクマさんは逮捕されてしまい、そのまま入管に収容されてしまう。「入管法違反」のために、日本に5年間は帰れない「退去強制令」が出され、いつまでかわからない収容をされたクマさん。「日本人は、あそこで何が起きているか、ぜんぜん知らないよね」。何も知らなかったミュキさんと私は裁判で争うことになる…。

『アナログ』 ビートたけし

「男と女っていうのはね、会った瞬間が一番いいんだと思ってるわけ。『あ、いいな』と思った時が一番その子を好きな瞬間で、その後の好きになっていく気持ちは妥協でしかないと思ってるの」。70歳にして初めてたけしが書いた恋愛小説が、ニノ&波瑠の主演で映画化！ いまどき珍しいほどの純愛小説です。「今どきの何でも手軽に連絡を取り合う人間関係、それじゃ悩んだり心配したり、心の葛藤がない。時代に逆らうようなアナログな付き合い方、それが本当の恋愛かもしれない」。建築デザイナーの悟は、自分が内装を手がけた喫茶店「ピアノ」で、ミスティアスな女性・みゆきと出会う。木曜の夕方にピアノにいる。ただそれだけ。彼女については、どこに住んでいるのか、何をしているのか、ケータイ番号もメールアドレスも何も知らない。「お互いに会いたいという気持ちがあれば、絶対に会えますよ」という彼女の言葉を信じて、彼女のことを大好きになった悟はそのままの関係を続けるが…。いつものたけしの笑いもあります。「人生で一度だけ、こんな恋がしたいと思った」。

